

北朝鮮の弾道ミサイル発射及び核実験を糾弾する声明

北朝鮮は9月3日、昨年につき6回目となる核実験を強行し、大陸間弾道ミサイル（ICBM）搭載用の水爆実験だと報じた。

JR総連は、人類の敵である「核」と北朝鮮の度重なる弾道ミサイルの発射という暴挙に満腔の怒りを持って抗議する。

朝鮮中央テレビは「今回の実験は、ICBM弾頭部に搭載する水爆の製造のために新たに導入した技術の正確性と信頼性を実証するために行われた」「核武力完成の完結段階の目標に向け、非常に意義のある契機となる」との核兵器研究所の声明を読み上げた。国際社会の平和と安定を脅かす核武力やミサイルによって、自国体制を維持する北朝鮮の蛮行を私たちは断じて許すわけにはいかない。

日本は1945年8月に2度の核爆弾が唯一地上に落とされ、核によって多くの命が奪われた。また、放射能による被害は今なお多くの市民に困難な生活を余儀なくしている。被爆国である私たちは、世界に先駆けて核兵器の廃絶と戦争の根絶を訴えてきた。そして、戦後72年にして念願であった核兵器禁止条約が7月に国連で採択されたばかりであり、明らかに今回の北朝鮮の核実験は、被爆国日本と核兵器廃絶を求める国々に対する暴挙である。

一方、アメリカ政府は、北朝鮮の核実験に対し「全ての選択肢が卓上にある」と武力攻撃も辞さぬ構えを示し、安倍首相とトランプ大統領は北朝鮮に対し「これまでにない強い圧力をかけなければならない」との認識が一致したと明らかにした。

また、安倍政権は北朝鮮からの危機を必要以上に煽り、国民を戦時体制へ導き出そうとしている。しかし、危機を必要以上に煽り、圧力によって国際的緊張感を高めることは、戦争を正当化する行為であり、断じて許すわけにはいかない。

JR総連は、平和な社会の実現に向け、核兵器禁止条約の精神に則り、北朝鮮の暴挙と、あらゆるテロと戦争政策に反対し、憲法9条改悪を許さず、平和・人権・民主主義を守るために多くの仲間と固く連帯したたかっていく。

2017年9月6日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）